

# 3本の柱でさらに医療・福祉に寄与 1年の締めくくりに餅つきと仕事納め

年末恒例の餅つきが12月26日、城西病院の旧玄関前で行われ、仕事納めの28日には今年を振り返り、新しい年の抱負を語りました。

餅つきは、臼を3基用意し、職員が交代で杵を振り下ろし、みるみるうちにつき上げていきました。城西病院院内託児所から子供たちも駆け付け、つきたての餅をほおぼっていました。出来立ての餅は女性職員が集まって、鏡餅、きな粉餅、あんこ餅、辛み餅、伸し餅などにして、各職場に配布しました。

仕事納めはリハビリ室に職員が集まって行いました。多田理事長は「今年はDMAT（災害派遣医療チーム）が2チームできた。病院としての一番の仕事」と1年を振り返り、「救急車も年間約1300台を受け入れている。4月には社会医療法人になるめどがついた。公益財団法人、社会福祉法人、そして社会医療法人の3本柱で医療・福祉に貢献していきたい」とあいさつ。そして「来年も新たなことに取り組んでいきたい。茶釜の湯を使って何かできないかと考えている」と抱負を述べ、白石裕比湖院長も来年の抱負を語りました。最後に、拍子木の音頭に合わせて3本締めで今年を締めくくりました。

平成30年12月28日

